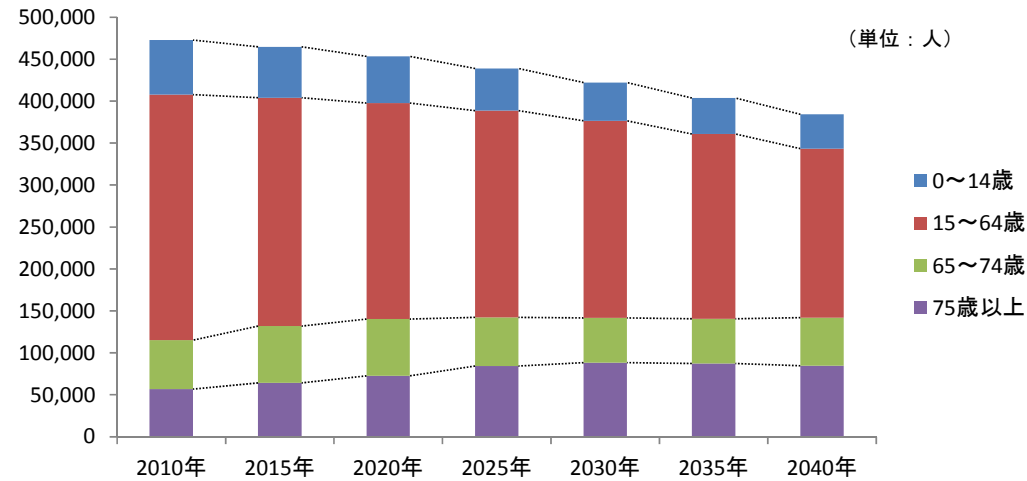


1 人口構造の変化の見通し

- ・ 2010年の人口は約47万人。2040年には18.7%減少し、約38万人になる。
- ・ 65歳以上人口は2025年に向けて23.6%増加し、その状況が2040年まで継続する。
- ・ 75歳以上人口は2025年に向けて48.0%増加し、その後2030年をピークに減少する。



	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年
0～14歳	64,925	60,586	55,472	50,182	45,706	42,912	40,777
15～64歳	292,576	272,257	257,536	246,256	234,628	220,268	201,443
65～74歳	58,192	67,393	67,549	58,061	53,342	53,233	57,204
75歳以上	56,892	64,360	72,601	84,228	88,433	87,404	84,817
総数	472,584	464,596	453,158	438,727	422,109	403,817	384,241

2 構想区域の現状と課題

○医療提供体制・疾病構造・患者の受療動向

- ・ 圏域内に病院は13病院あり、そのうち一般病床、療養病床を有する病院は11病院。病床数のうち約7割が一般病床であり、一般病床の割合が高い医療圏である。
- ・ 圏域内に、がんの集学的治療や脳卒中・急性心筋梗塞の救急医療を担う医療機関が複数あり、多くは圏域内で対応している。しかし、がんについては、隣接する静岡医療圏への患者流出がみられる。
- ・ 第2次救急医療は公立4病院が対応しているが、圏域内に第3次救急医療機関がない。
- ・ 圏域内の医療施設従事医師数は年々増加傾向にあるが、平成24年12月末日現在687人、人口10万人あたりでは146.5人であり、県全体の186.5人を大きく下回っている。
- ・ 死因別標準化死亡比（SMR）をみると、死因の多くを占める悪性新生物、心疾患、脳血管疾患、肺炎は県全体に比べて低く、老衰が高い。

○基幹病院までのアクセス

- ・ 圏域内の医療体制は公立4病院を中核医療機関として構築されている。いずれも一般道が整備され、アクセス上の問題はない。

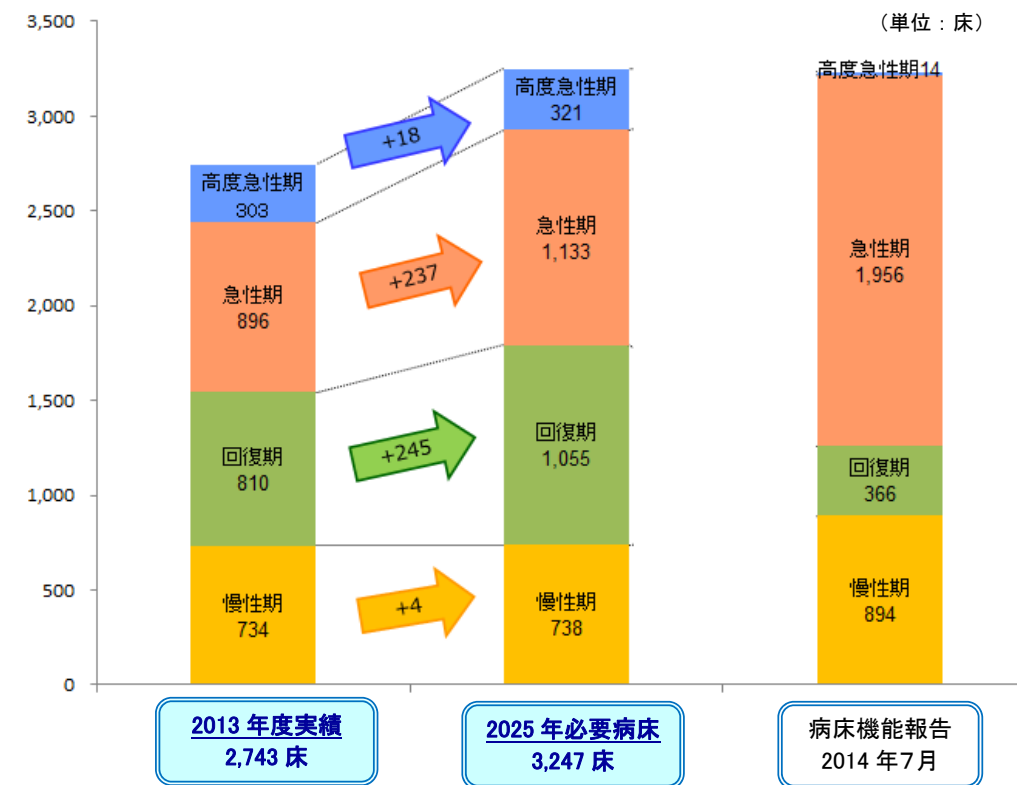
○平成26年度以降の状況変化と今後の見込

- ・ 市立島田市民病院（平成32年度開院予定。一般病床 36床減、療養病床 35床減、精神病床 20床減）及び焼津市立総合病院（平成34年度開院予定）の建て替えが計画されている。
- ・ 藤枝市立総合病院が救命救急センター指定に向け、準備中である。
- ・ 在宅医療を担う医師や訪問看護師の不足に対し、市町、郡市医師会、公立病院を中心に在宅医療提供体制の構築に向けた新しい取組を始めている。

3 医療需要と2025年のあるべき医療提供体制

○2025年の必要病床数

- ・ 2025年の必要病床数は3,247床。2013年度実績から504床の充実が必要になると推計される。
- ・ 高度急性期は18床、急性期は237床、回復期は245床、慢性期は4床の充実が必要になると推計される。
- ・ 2025年の必要病床数のうち、高度急性期、急性期、回復期の小計は2,509床、慢性期は738床。



○2025年の在宅医療等の必要量

- ・ 2025年に向けて、在宅医療等の医療需要の増加は1,262人、うち訪問診療分について401人増加すると推計される。
- ・ 2025年の在宅医療等必要量のうち、訪問診療分の内訳は約38%。

